

弘前学院大学社会福祉学部研究紀要

創 刊 号

弘前学院大学社会福祉学部

2001年3月

執筆者紹介（投稿順）

大	野	拓	哉	助教授	社会福祉学部	憲法学
花	村	春	樹	教授	社会福祉学部	ソーシャルワーク・ ウイズ・グループス
志	村	健	一	専任講師	社会福祉学部	ソーシャルワーク・ ウイズ・グループス
栗	山		隆	専任講師	社会福祉学部	ソーシャルワーク・ ウイズ・グループス
松	本	郁	代	専任講師	社会福祉学部	社会福祉発達史
西	東	克	介	専任講師	社会福祉学部	行政学・ 教育行政
田	中	利	宗	助教授	社会福祉学部	ソーシャルワーク
出	村	和	子	教授	社会福祉学部	家族ソーシャル ワーク

目 次

最高裁「校則」判決の含意……………	大 野 拓 哉 (1)
——最高裁平成8年2月22日第一小法廷判決——	
基礎社会過程とソーシャルプレイング：……………	花 村 春 樹 (8)
事例からみるソーシャル・グループワークの展開過程に	志 村 健 一
おける終結期に関する考察	栗 山 隆
1930年代における「田山セツルメント」……………	松 本 郁 代 (15)
および「小湊セツルメント」の様相	
学校におけるいじめ問題への対処の限界と可能性……………	西 東 克 介 (22)
社会リハビリテーションと権利擁護……………	田 中 利 宗 (30)
——社会福祉教育の視点のひとつを求めて——	
家族アドボカシーから……………	出 村 和 子 (38)
マクロ・ソーシャルワークへの展開	
ソーシャルワークにおけるアドボカシー機能を捉える	

弘前学院大学社会福祉学部研究紀要投稿規程

第1条（目的と名称）

弘前学院大学社会福祉学部は、本学部教員の学術研究の奨励及びその成果発表のために、学術雑誌を定期的に刊行する。

- 2 前項の学術雑誌は『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』（以下、「紀要」という。）と称する。

第2条（発行）

本紀要の発行は、各年度1回とする。

第3条（紀要編集委員会）

本紀要の編集および発行のために、本学部内に紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。

- 2 編集委員会は、本学部教授会で選出された5名の編集委員を以て構成する。
- 3 編集委員会は、互選によって委員長を選出する。
- 4 編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

第4条（投稿資格）

本紀要への投稿資格を有する者は次の通りとする。

- 一、本学部専任教員（共著の場合には筆頭者であることを要する。）
- 二、本学部非常勤講師および本学他学部教員で編集委員会の承認を得た者

第5条（掲載項目）

本紀要に掲載する研究業績は未発表のものとし、原則として次の二種類とする。

- 一、論説（article）
- 二、研究ノート（interim research report）

第6条（掲載手続）

本紀要に掲載する研究業績は、別に定めるところに従って、本規程第4条に該当する者よりこれを公募する。

第7条（学術審査）

編集委員会は、提出された研究業績の専門分野に応じて、学内の教員の中から査読者（複数）を選定し、審査を依頼する。但し、学内に適当な査読者のないときには、学外者を以てその任に当たらせることができる。

- 2 学術審査の結果は、次の通りとする。
 - 一、採 用 掲載を可とする。
 - 二、保 留 査読者の意見を付して著者に加除修正等を求める。この場合には、原稿の再提出をうけて再度学術審査を行った上で、掲載の可否を決する。
 - 三、不採用 掲載を不可とする。この場合には、不可とする理由を付さなければならない。
- 3 編集委員会は、前項各号のいずれにおいても、著者に対して、書面を以て、学術審査の結果を伝達しなければならない。
- 4 編集委員会は、学術審査の結果に基づいて、掲載の可否を決定する。

第8条（改正）

本規程の改正は本学部教授会の議を経なければならない。

付 則 本規程は2000年4月1日から施行する。

編集委員長 齋藤 繁
編集副委員長 大野 拓哉
編集委員 田中 利宗
松本 郁代
北村 繁
編集協力員 藤田 昶
浪岡 敬子

ISSN 1346-4655

弘前学院大学 社会福祉学部研究紀要 創刊号

2001年3月20日 印刷

2001年3月25日 発行

編集者 社会福祉学部研究紀要編集委員会
弘前市楡町13の1 (電話0172-34-5211)
発行所 弘前学院大学
社会福祉学部
印刷所 やまと印刷株式会社
弘前市神田4-4-5 (電話0172-34-4111)

Bulletin

of

Faculty of Social Work, Hirosaki Gakuin University

Vol. 1.

CONTENTS

Articles

- Les Implications du Jugement 22 février 1996 par la Cour Suprême
..... Takuya OHNO (1)
- Basic social process and social playing:
 Termination stage of social work with groups
 Haruki HANAMURA, Kenichi SHIMURA, Takashi KURIYAMA (8)
- Aspects of the Tayama and Kominato Settlements in the 1930's
..... Ikuyo MATSUMOTO (15)
- The Limits and Possible Solutions for ending Bullying in Schools
..... Katsusuke SAITO (22)
- Social Rehabilitation and Advocacy Toshinori TANAKA (30)
- The Gradual Shift from Family Advocacy to Macro Social Work
 How Social Workers see their Role as Advocates
 Kazuko DEMURA (38)

PUBLISHED BY
HIROSAKI GAKUIN UNIVERSITY
HIROSAKI, JAPAN
MARCH 2001